

和光市男女共同参画に関する こども意識調査 報告書

概要版



調査概要

①小学生意識調査		②中学生意識調査		
調査設計等	◆調査対象	市内の小学4年生	◆調査対象	市内の中学2年生
	◆標本数	715	◆標本数	531
	◆調査方法	学校配布・学校回収	◆調査方法	学校配布・学校回収
	◆調査期間	令和元年9月9日(月)～9月24日(火)	◆調査期間	令和元年9月9日(月)～9月24日(火)
	◆有効回収数	714	◆有効回収数	493
	◆有効回収率	99.8%	◆有効回収率	92.8%
調査項目	男女の性差についての意識、性別役割について大人から注意された経験、男女の地位の平等感(中学生のみ)、家事手伝い状況、性別役割分担意識、希望する将来の働き方、男女共同参画に関する言葉の理解度、デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとり経験等			

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数です。

※ 本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100とならない場合があります。

回答者の属性

1 性別(小学生)

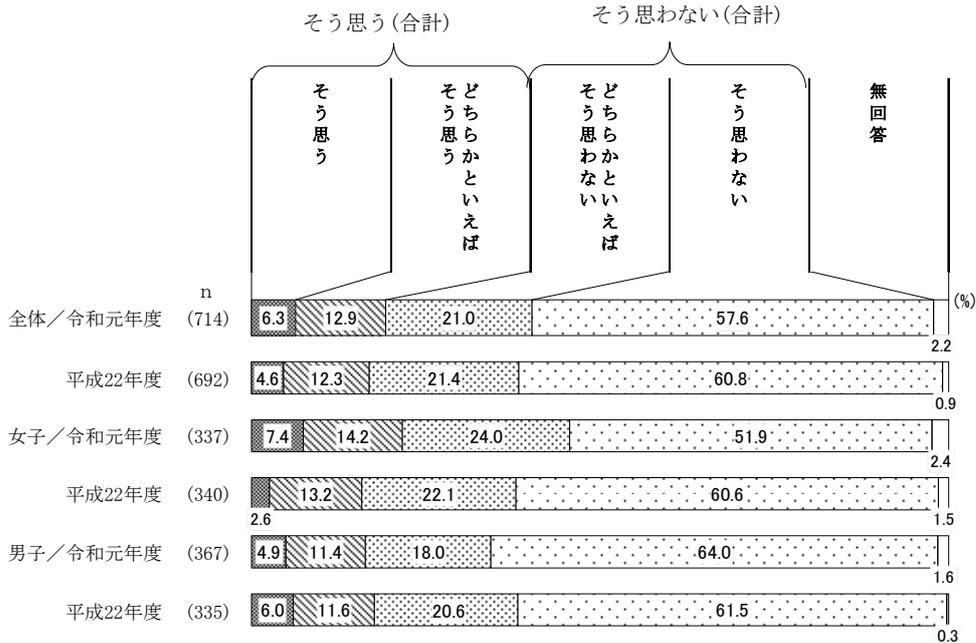
	基数(人)	構成比(%)
女子	337	47.2
男子	367	51.4
その他	3	0.4
(無回答)	7	1.0
合計	714	100.0

2 性別(中学生)

	基数(人)	構成比(%)
女子	232	47.1
男子	255	51.7
その他	4	0.8
(無回答)	2	0.4
合計	493	100.0

1 男女の性差についての意識

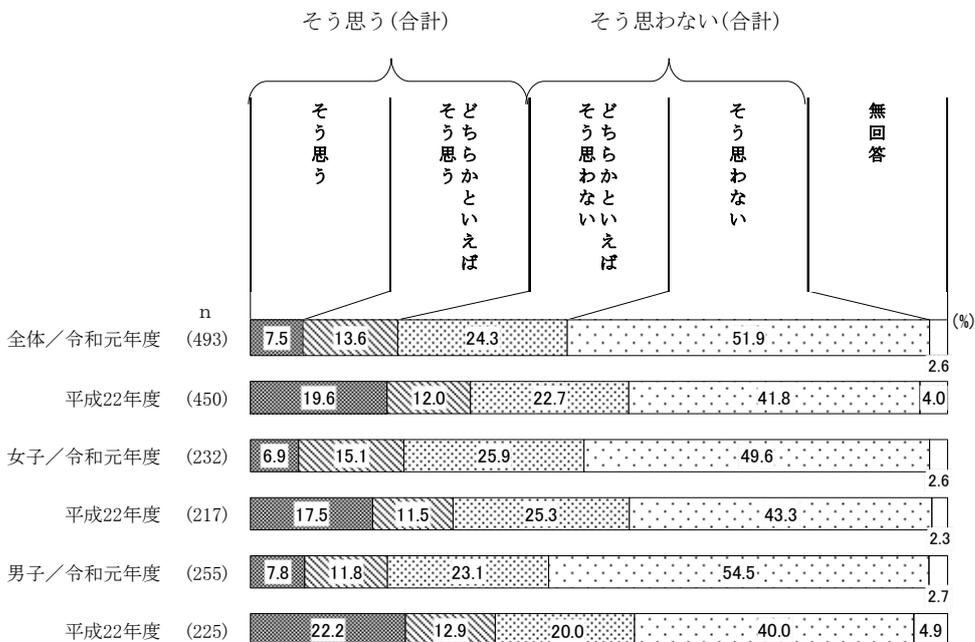
【小学生】 <学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある。>



『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が78.6%である。性別でみると、《そう思わない（合計）》が女子75.9%、男子82.0%と、男子が女子を上回っている。

平成22年度調査と比較すると、《そう思う（合計）》が女子で増加し、男子ではわずかに減少し、男女で差がみられる。

【中学生】 <学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある。>

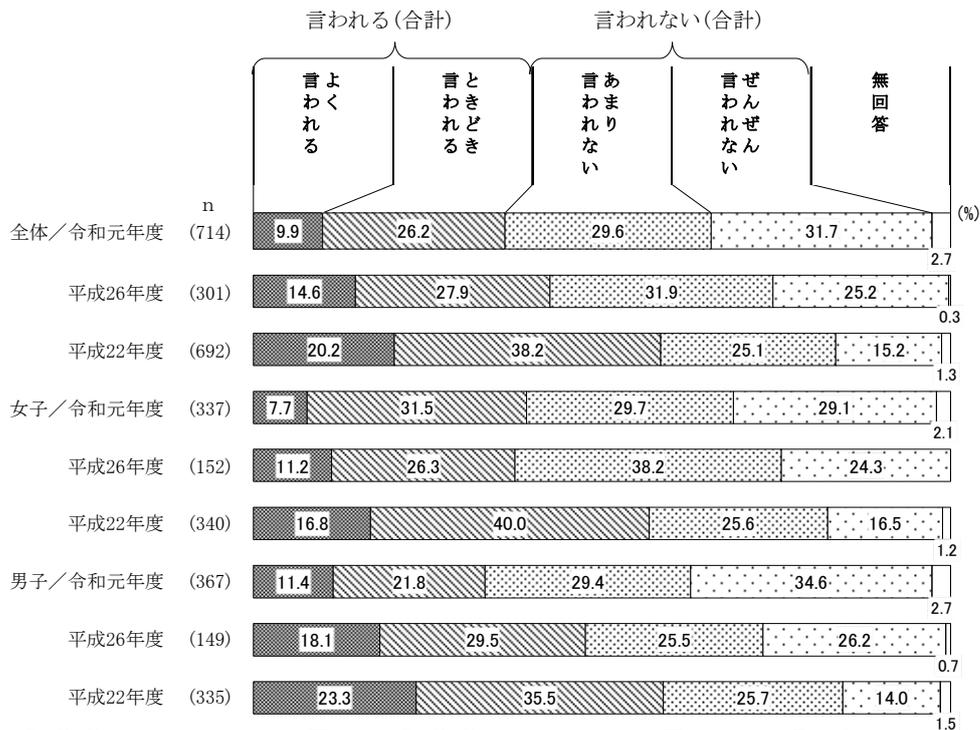


『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が76.2%である。性別でみると、《そう思わない（合計）》が女子75.5%、男子77.6%と、男女ともに7割を超える。

平成22年度調査と比較すると、男女ともに《そう思う（合計）》が減少し、《そう思わない（合計）》が増加している。

2 性別役割について大人から注意された経験

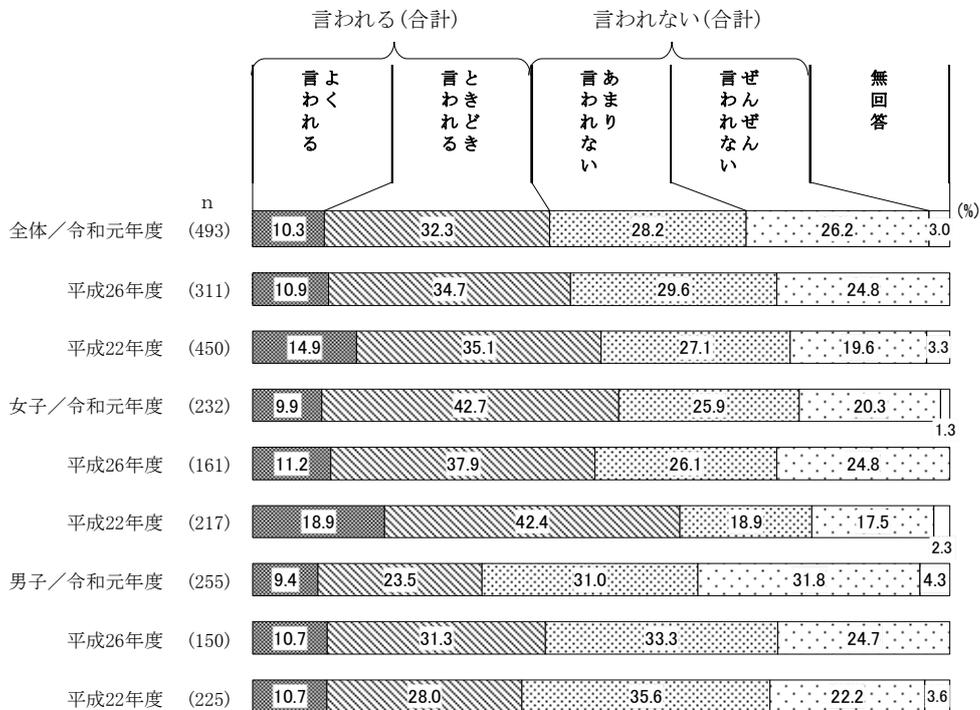
【小学生】



「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた経験については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる(合計)》が36.1%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない(合計)》が61.3%となっている。性別でみると、《言われる(合計)》が女子39.2%、男子では33.2%となっている。

経年で比較すると、《言われる(合計)》は平成22年度から令和元年度にかけて、男女ともに減少しているが、男子の方がより減少している。

【中学生】

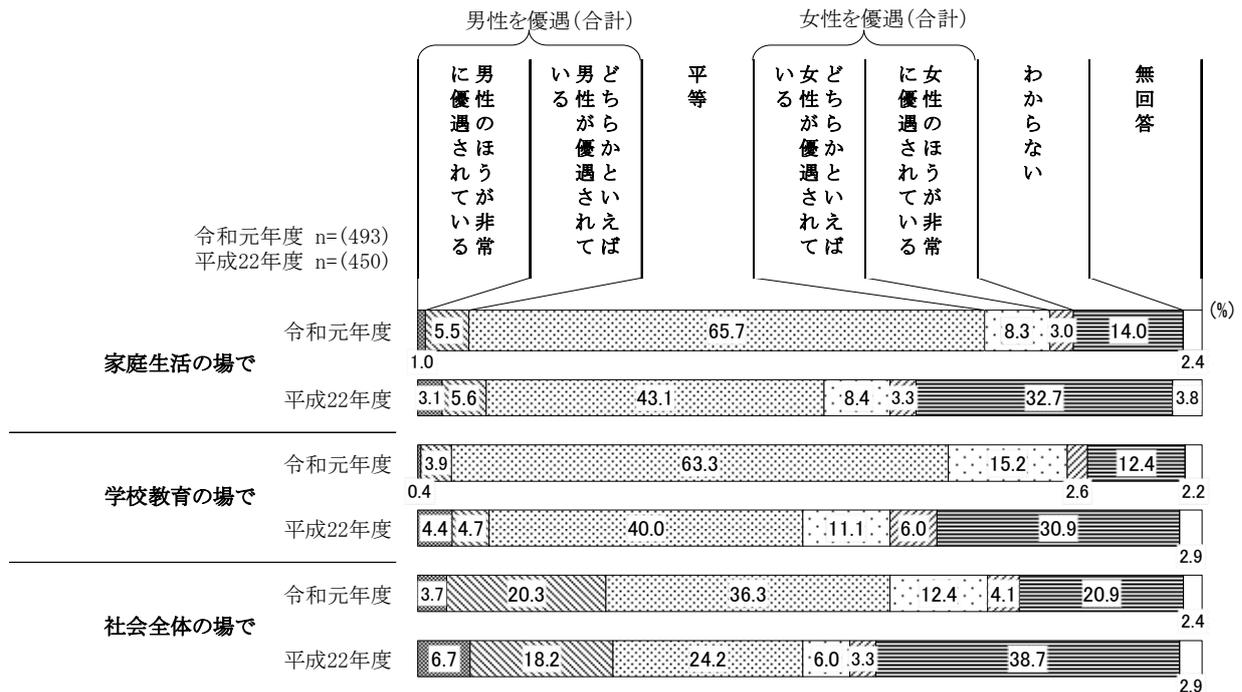


「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた経験については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる(合計)》が42.6%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない(合計)》が54.4%となっている。性別でみると、女子では《言われる(合計)》が52.6%、男子では《言われない(合計)》が62.8%となっている。

経年で比較すると、《言われない(合計)》は平成22年度から令和元年度にかけて、男女ともに増加している。

3 男女の地位の平等感

【中学生】

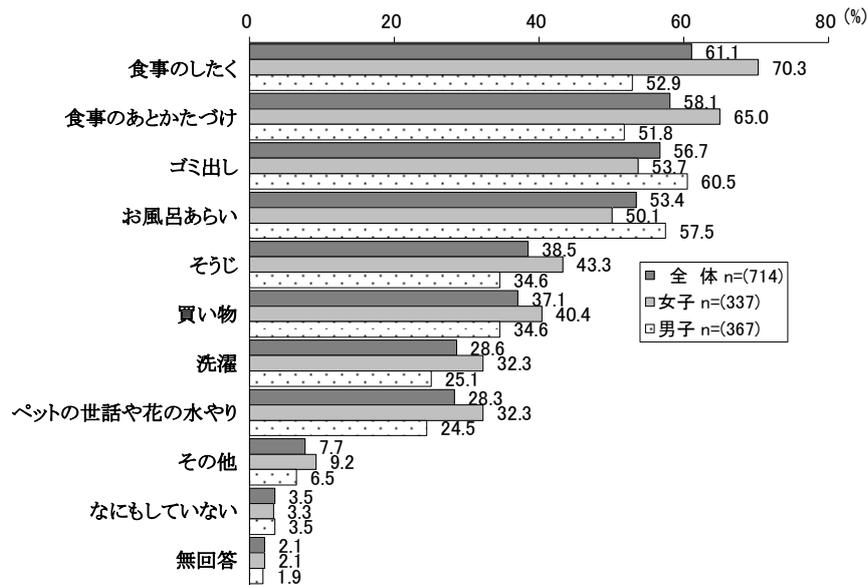


男女の地位の平等感について、「平等」が『家庭生活の場』で65.7%と最も高く、次いで『学校教育の場で』で63.3%、『社会全体の場で』で36.3%となっている。

平成22年度調査と比較すると、すべての項目で「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた「男性を優遇(合計)」が減少し、「平等」が増加している。

4 家事の手伝い状況

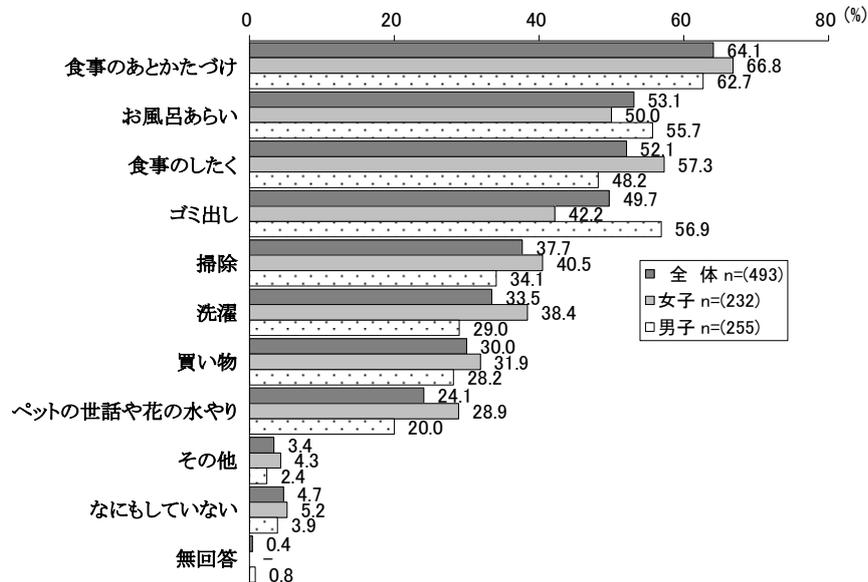
【小学生】



家事の手伝い状況については、「食事のしたく」が61.1%と最も多くなっている。次いで「食事のあとかたづけ」が58.1%、「ゴミ出し」が56.7%となっている。

性別で見ると、女子では「食事のしたく」(70.3%)、「食事のあとかたづけ」(65.0%)、「そうじ」(43.3%)が男子に比べて高い。一方、男子では「ゴミ出し」(60.5%)、「お風呂あらい」(57.5%)が女子に比べて高くなっている。

【中学生】

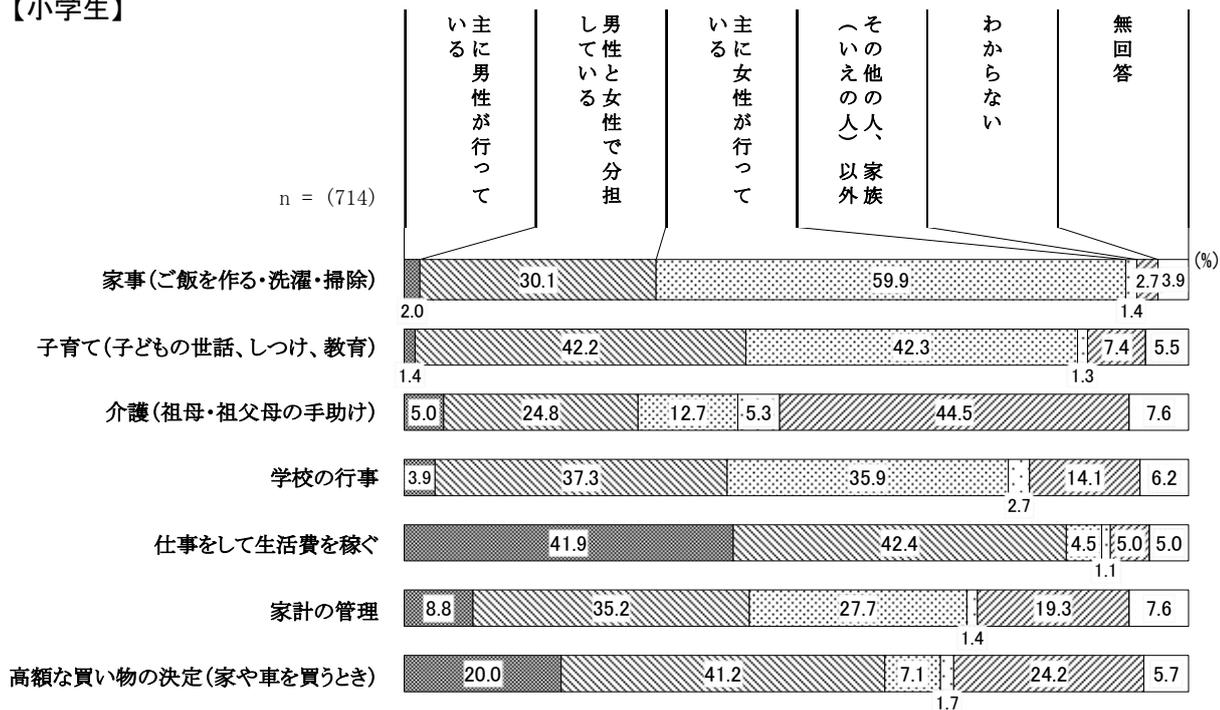


家事の手伝い状況については、「食事のあとかたづけ」が64.1%と最も多くなっている。次いで「お風呂あらい」が53.1%、「食事のしたく」が52.1%となっている。

性別で見ると、女子では「食事のしたく」(57.3%)、「洗濯」(38.4%)、「ペットの世話や花の水やり」(28.9%)が男子に比べて高い。一方、男子では「ゴミ出し」(56.9%)が女子に比べて高くなっている。

5 家庭生活での役割分担

【小学生】

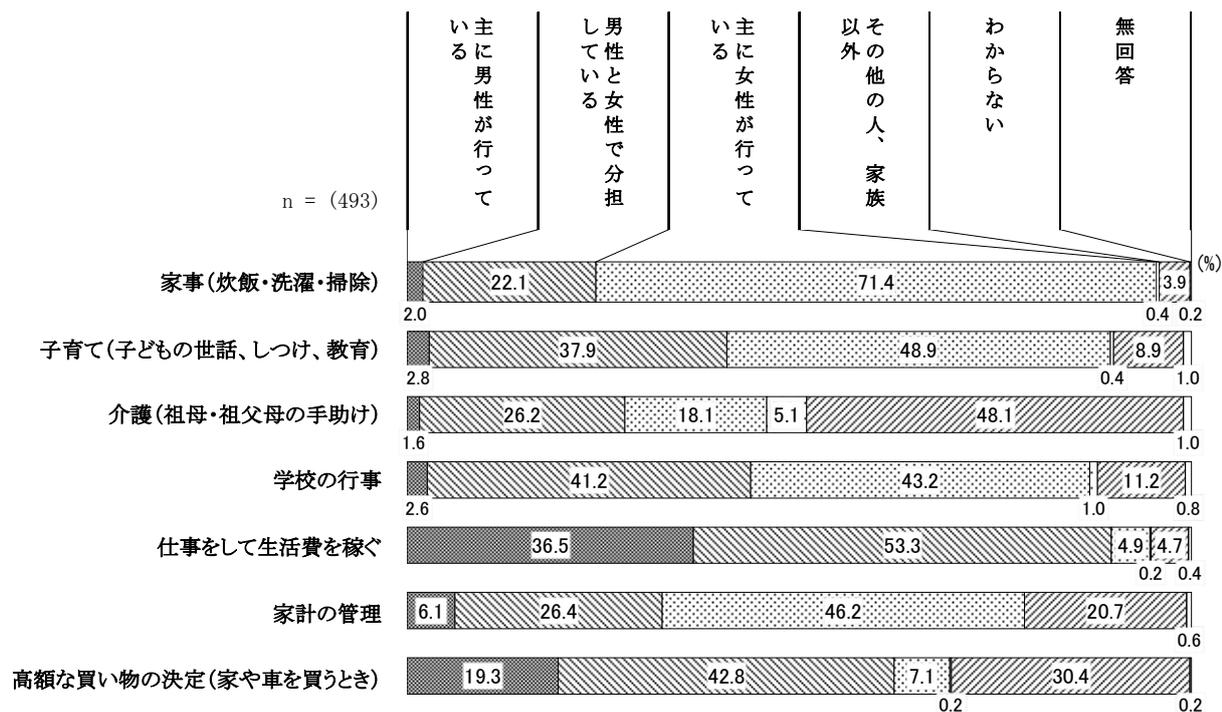


家庭生活での役割分担について「主に女性が行っている」ことは、『家事（ご飯を作る・洗濯・掃除）』が59.9%で約6割を占めている。次いで『子育て(子どもの世話、しつけ、教育)』が42.3%、『学校の行事』が35.9%となっている。

「男性と女性で分担している」ことは、『子育て(子どもの世話、しつけ、教育)』が42.2%、『高額な買い物の決定(家や車を買うとき)』が41.2%、『学校の行事』が37.3%となっている。

「主に男性が行っている」ことは、『仕事をして生活費を稼ぐ』が41.9%で最も高く、次いで『高額な買い物の決定(家や車を買うとき)』が20.0%、『家計の管理』が8.8%となっている。

【中学生】



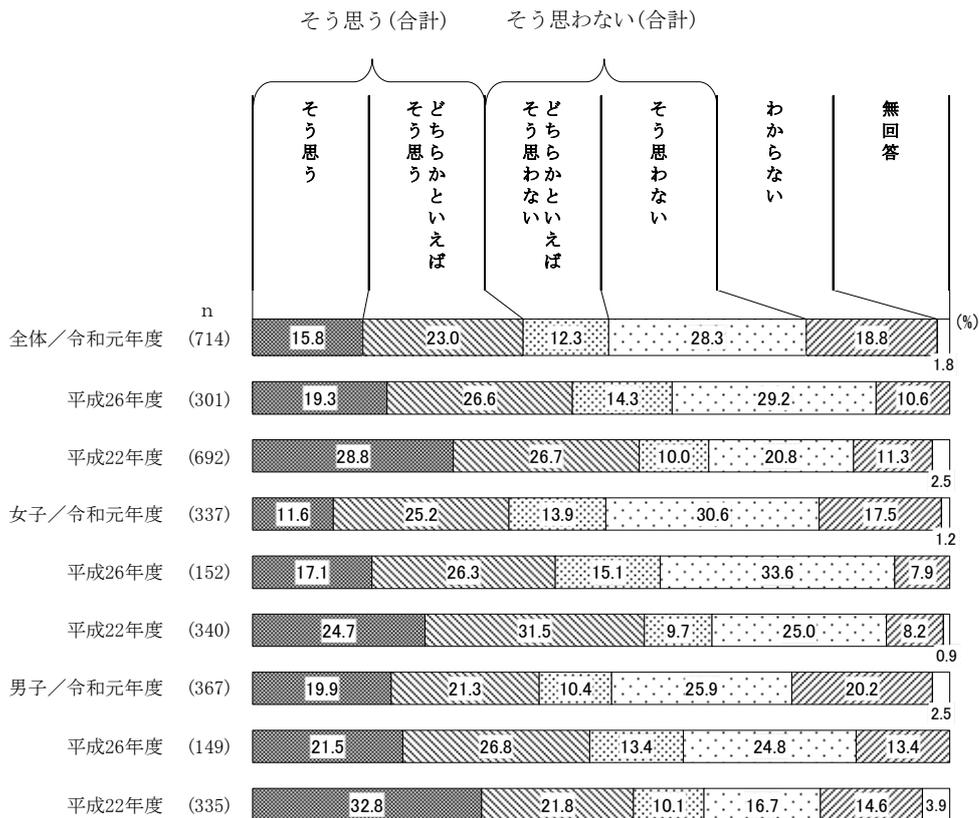
家庭生活での役割分担について「主に女性が行っている」ことは、『家事（炊飯・洗濯・掃除）』が71.4%で7割以上を占めている。次いで『子育て（子どもの世話、しつけ、教育）』が48.9%、『家計の管理』が46.2%となっている。

「男性と女性で分担している」ことは、『高額な買い物の決定（家や車を買うとき）』が42.8%、『学校の行事』が41.2%、『子育て（子どもの世話、しつけ、教育）』が37.9%となっている。

「主に男性が行っている」ことは、『仕事をして生活費を稼ぐ』が36.5%で最も高く、次いで『高額な買い物の決定（家や車を買うとき）』が19.3%、『家計の管理』が6.1%となっている。

6 性別役割分担意識

【小学生】

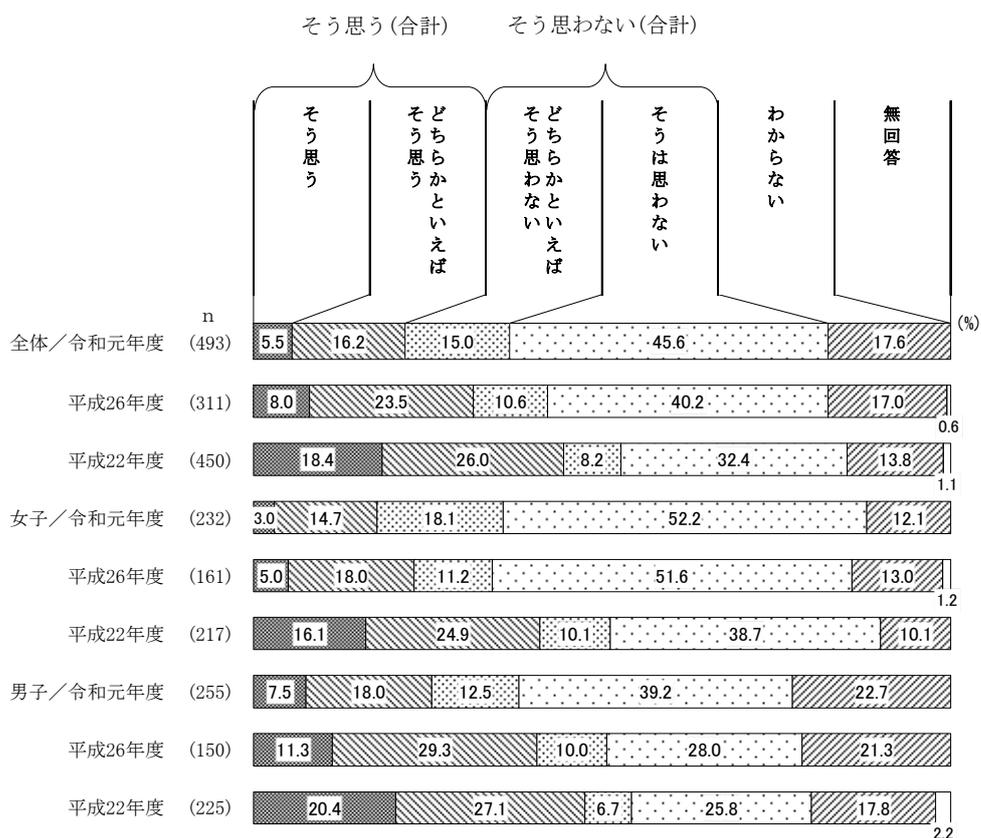


「男は仕事に専念して、女は家庭を守るべき」と思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う(合計)》が38.8%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない(合計)》が40.6%となっている。

性別でみると、《そう思わない(合計)》が女子44.5%、男子36.3%と、女子が男子を上回っている。

経年で比較すると、《そう思う(合計)》は平成22年度から令和元年度にかけて、男女ともに大きく減少している。一方、《そう思わない(合計)》は平成26年度から令和元年度にかけて、女子ではやや減少している。

【中学生】



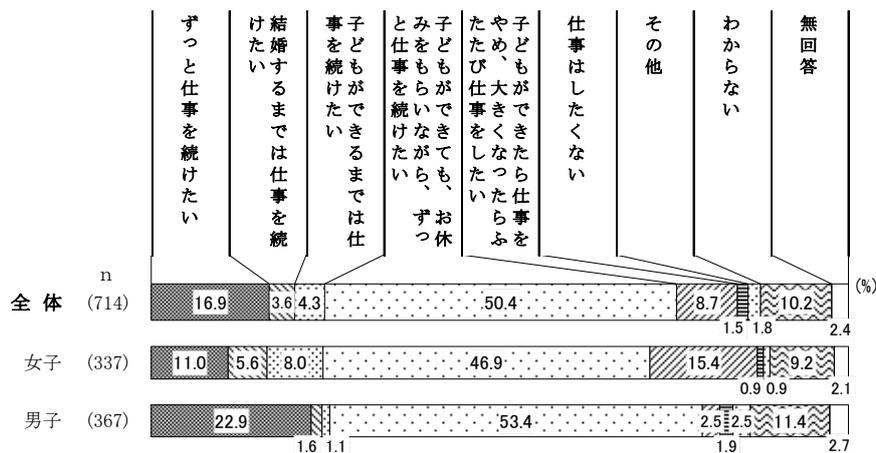
「男は仕事に専念して、女は家庭を守るべき」と思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」を合わせた《そう思う（合計）》が21.7%、「どちらかといえはそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が60.6%となっている。

性別でみると、《そう思う（合計）》が女子17.7%、男子25.5%と、男子が女子を上回っている。一方、《そう思わない（合計）》が女子70.3%、男子51.7%と、女子が男子を大きく上回っている。

経年で比較すると、《そう思う（合計）》は平成26年度から令和元年度にかけて、男女ともに減少しており、特に男子では大きく減少している。一方、《そう思わない（合計）》は平成26年度から令和元年度にかけて、男女ともに増加しており、特に男子では大きく増加している。

7 希望する将来の働き方

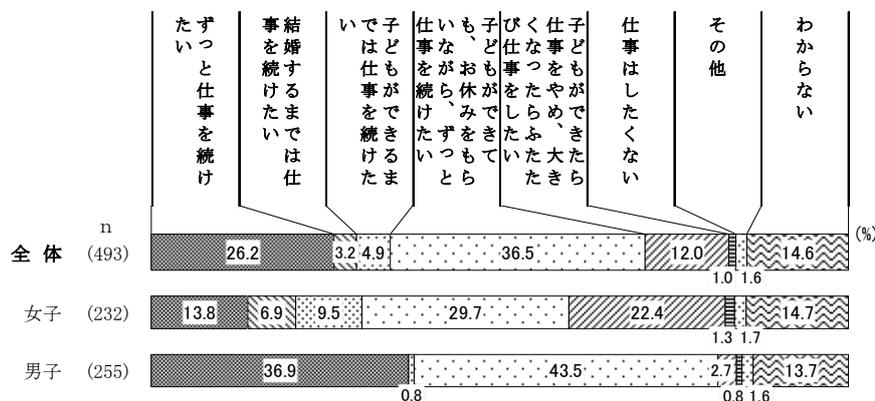
【小学生】



希望する将来の働き方は、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が50.4%である。また、「ずっと仕事を続けたい」が16.9%となっている。

性別でみると、「子どもができれば、仕事をやめ、大きくなったら仕事をしたい」が女子15.4%、男子2.5%と、女子が男子を大きく上回っている。一方、「ずっと仕事を続けたい」が女子11.0%、男子22.9%と、男子が女子を大きく上回っている。

【中学生】

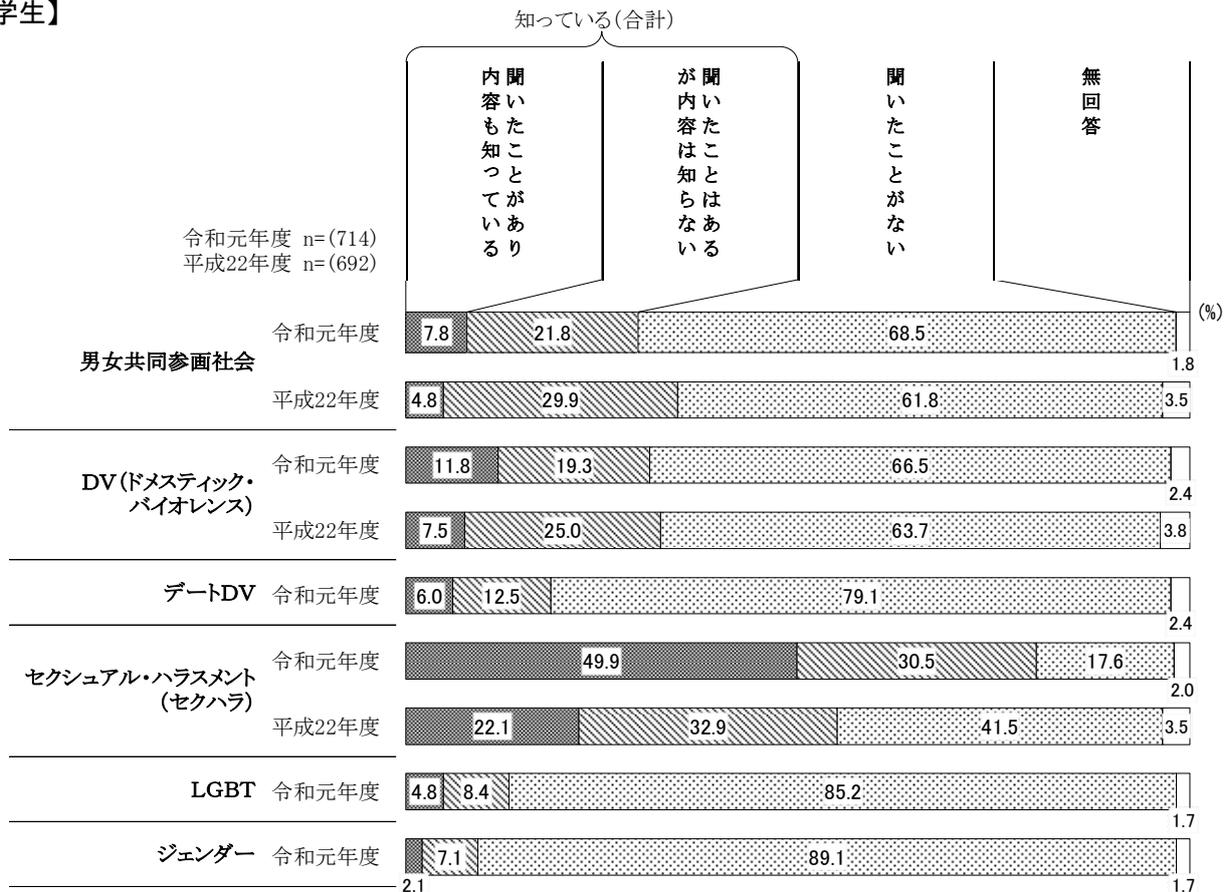


希望する将来の働き方は、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が36.5%である。また、「ずっと仕事を続けたい」が26.2%、「子どもができれば、仕事をやめ、大きくなったら仕事をしたい」が12.0%となっている。

性別でみると、「子どもができれば、仕事をやめ、大きくなったら仕事をしたい」が女子22.4%、男子2.7%と、女子が男子を大きく上回っている。一方、「ずっと仕事を続けたい」が女子13.8%、男子36.9%、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が女子29.7%、男子43.5%と、いずれも男子が女子を大きく上回っている。

8 男女共同参画に関する言葉の理解度

【小学生】

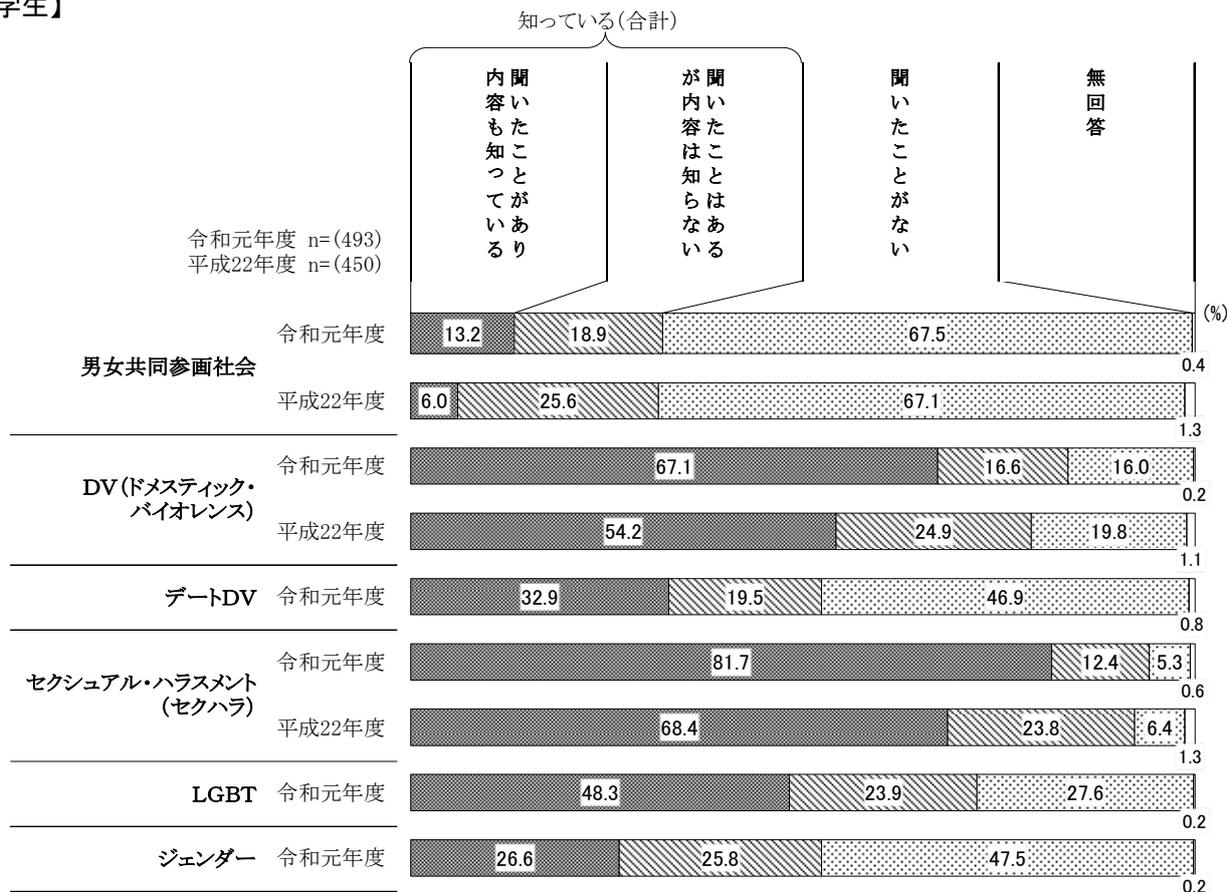


男女共同参画に関する言葉の理解度は、「聞いたことがあり内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた「知っている(合計)」がセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)で80.4%と最も高くなっている。次いでDV(ドメスティック・バイオレンス)が31.1%、男女共同参画社会が29.6%となっている。

一方、「聞いたことがない」はジェンダーで89.1%と最も高く、次いでLGBTで85.2%、デートDVで79.1%となっている。

平成22年度調査と比較すると、「知っている(合計)」がセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)で25.4ポイント増加している。

【中学生】



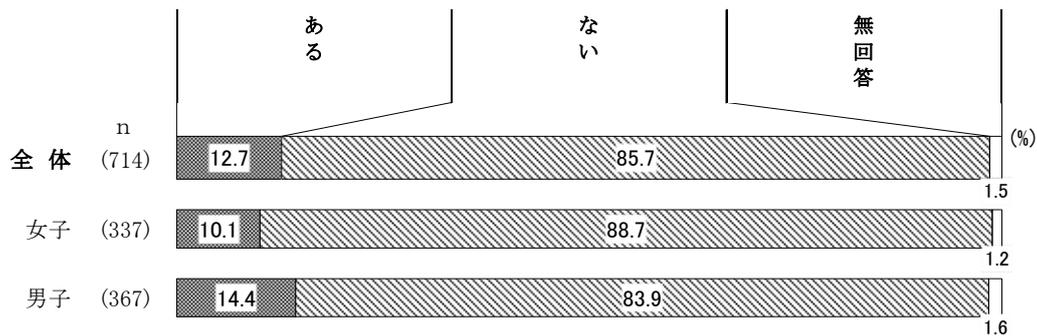
男女共同参画に関する言葉の理解度は、「聞いたことがあり内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた「知っている(合計)」がセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)で94.1%と最も高くなっている。次いでDV(ドメスティック・バイオレンス)が83.7%、LGBTが72.2%となっている。

一方、「聞いたことがない」は男女共同参画社会で67.5%と最も高く、次いでジェンダーで47.5%、デートDVで46.9%となっている。

平成22年度調査と比較すると、「聞いたことがあり内容も知っている」がセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)で13.3ポイント増加している。

9 デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験

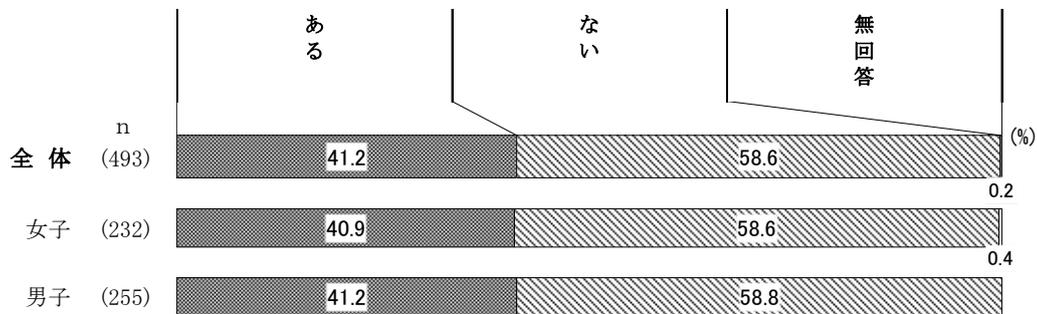
【小学生】



デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験は、「ある」が12.7%である。一方、「ない」が85.7%を占めている。

性別でみると、「ある」は、女子が10.1%、男子が14.4%で、男子が女子をやや上回っている。

【中学生】



デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験は、「ある」が41.2%、「ない」が58.6%である。

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。



和光市総務部総務人権課

〒351-0192 和光市広沢1番5号 TEL 048-424-9094

和光市 <http://www.city.wako.lg.jp/>
ホームページ